（書式２）

＜事務局使用欄＞**受付番号：**　　－

「２０２４年度韓国・延世大学校スプリングプログラム派遣参加報告書」

京都大学医学研究科修士課程２年　大橋　沙葵

① 学習成果

派遣前は、韓国語はゆっくり時間をかければハングルを読める程度しかできず、韓国社会や文化への理解も表面的でした。しかし、京都大学での事前語学授業および延世大学韓国語学堂での 3 週間の集中授業を通じて、基礎文法や日常会話表現を体系的に習得し、挨拶や簡単な自己紹介、買い物や飲食店での注文、友人との簡単な会話など、限られた表現や語彙でも自信を持って会話ができるようになりました。授業ではペアワークや発表が多く、間違いを恐れず話す姿勢が身につきました。また、多国籍のクラスメイトと共に学ぶ中で、自分から質問・発言する積極性や、国際的な視野と異文化理解の重要性を再認識しました。今後は韓国語学習を継続し、中長期的なスキルアップおよび他地域での学びにも挑戦したいという意欲が高まりました。

② 海外での経験

派遣中は、授業外でもクラスメイトや現地の人々と積極的に交流し、文化や価値観の違いを肌で感じました。放課後や週末には、市場や博物館、観光地（DMZ ツアーやハンガンクルーズなど）を訪れ、実際の歴史を深く学び、また日常生活のリアルな側面に触れることができました。特に、現地学生と食事をしながら日韓関係や生活習慣の違い、韓国の徴兵制度について語り合ったことは印象的でした。異なる背景を持つ人と対話することで、相手を尊重しつつ自分の考えを伝える力が鍛えられました。

③ プログラム内容

午前は 9:00～13:00 に韓国語授業を受講し、文法・会話・リスニング・作文をバランスよく学びました。午後は文化体験（ハングルカリグラフィー、螺鈿漆器、韓国料理体験）、現地講師による特別講義「日韓事情」、および延世大学 Underwood International College（UIC）の科目聴講（Politics of Beauty, European Literature, Masculinities, Modernities and Men, Visual Culture から選択）に参加しました。また、京都大学と延世大学の合同セミナーでは、テーマ設定から発表資料作成まで班ごとに準備し、最終的に UIC で英語による発表を行いました。語学学習・文化理解・学術交流が密接に結びついた構成で、また現地の学生と直接ディスカッションできたことは、教科書やインターネットでは得られない貴重な学びとなりました。こうしたプログラムにより、語学力だけでなく、文化や習慣に対する理解も広がりました。

④ 進路への影響

今回の経験は、将来のキャリア観にも大きな影響を与えました。私は医療・ビッグデータ分野を専攻しており、国際的な共同プロジェクトや多国籍チームでの協働を視野に入れています。異文化環境での学びと交流を通じ、語学力と異文化対応力の双方を高めることが、私の成長に不可欠であると強く実感しました。今後は、韓国語と英語の双方を磨きあげ、アジア地域をはじめ世界を舞台とする国際プロジェクトに果敢に挑戦していきたいと考えています。本プログラムは、そのための確かな第一歩として非常に有意義でした。